

新生マリン宣言

蒲郡マリンライオンズクラブは、ライオンズクラブ国際協会の会員として、モットーである『We Serve(われわれは奉仕する)』を胸に、その地位・名誉を十分理解し、その名に恥じぬよう奉仕活動を実践する。

今、当国際協会が目指す MISSION 1.5 (2027.7.1までに全世界合計会員数150万人)に賛同し、貢献するための諸策を以下に示す。

・いわゆる経営者会員ばかりでなく、女性、若手会員を含めより多様な意見を反映させるため、事務所費等の運営費を抜本的に見直し、年会費を下げるにより会員拡大を図る。

・経済力(寄付、寄贈等)の奉仕は他クラブにお願いし、今まで取組んできた知恵と労力の奉仕(アクティビティ)に重点を置く。

・アクティビティは5年10年のクラブ周年時に盛大にというよりは、毎年、地道にコツコツとより良いまちになるには何をすべきかSDGsの視点から考え企画実践する。

・当クラブの特徴であるフレンドシップを大切にして、友情、親善、相互理解の絆によって会員間の融和を図る。

以上

2024年2月22日 発行

◆入会案内

・奉仕活動に興味のある方、ぜひ当クラブへ。貴方の入会をお待ちしています。

◆入会資格

- ・蒲郡広域圏内に住居または、勤務先がある方
- ・年十数回の例会に出席できる方。場所：ホテル竹島
- ・年数回の奉仕活動に参加できる方
- ・LINE及びmail操作ができる方

◆手続き

・入会を希望される方は、当クラブまでメールまたはお電話ください。

◆承認

・入会は、会員委員会が入会規則に基づいて推薦し、理事会及び例会で承認後、貴方を招請します。



◆蒲郡マリンライオンズクラブ概要

◆地区名 334-A地区(愛知県)2R(東三)2Z

◆クラブ番号 49281

◆結成 平成元年2月28日(1989)

◆認証 平成元年5月7日(1989)

◆事務所

〒443-0104 愛知県蒲郡市形原町広田2番地4

市川総合事務所 2F

◆TEL 0533-57-3827

◆FAX 0533-57-3827

◆E-mail: info@gamagorimarine.jp

◆HP: <http://gamagorimarine.jp/>



2024.04<Vol.06>

蒲郡マリンライオンズクラブ CN35 周年記念事業



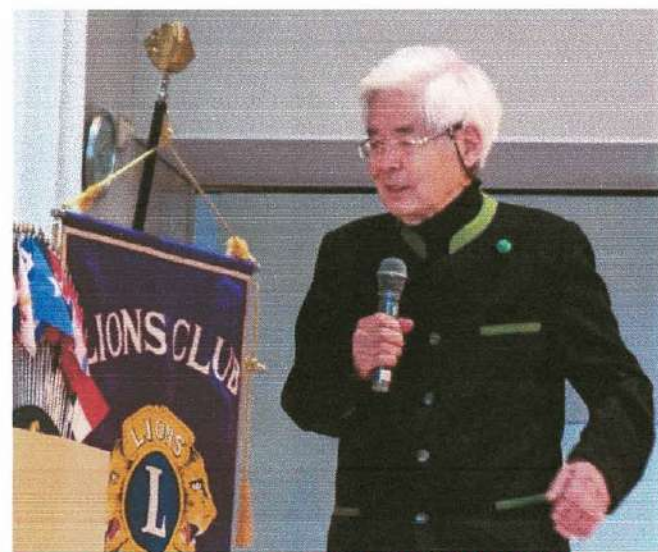
養老孟司氏講演会

『虫好き集まれ!趣味に生きる。』

日時:2024年4月13日(土)15:00~

場所:蒲郡商工会議所

司会進行記録:竹内元一



ホームページ 更新中!御覧ください。

会場の用意した 300 席がほぼ満席となり、市川貞也会長あいさつ、鈴木寿明蒲郡市長と柴田高志 334-A 地区第一副地区ガバナーの来賓あいさつの後、講師の養老孟司先生を紹介して講演会が始まりました。

何故、虫の中でもゾウムシの収集・研究に入るようになったのか？から始まり、ゾウムシの硬い体を作るのに特殊な細菌との共生関係が存在すること、生物多様性を作るには植物や菌類の協力も必要であること、日本列島の成り立ちからそこに棲む虫が分化発展していったこと、過去に起こった天変地異が人間社会の仕組みまで変えて行ったこと、虫を集めても何の役にも立たないと自虐的なことも仰りながら虫の眼から見た人間や社会など示唆に富むお話をしてくださりました。

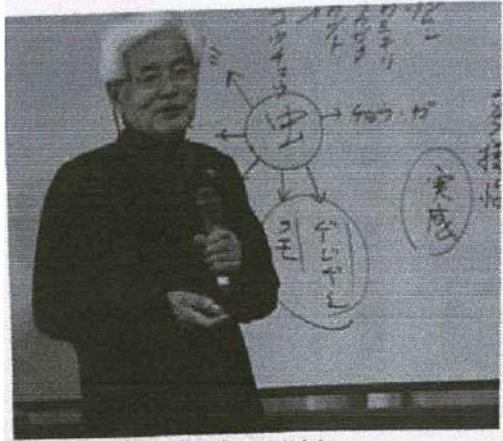
会場には虫に興味を持つ小中学生から学校の先生、あるいは全国から来た虫屋さんたち、テレビ・ラジオで活躍する養老先生を一目見ようと集まった一般市民の方たちなど幅広く、質問タイムでは専門的な虫の話から先生が可愛がっていた愛猫のマルのことまで色々な質問が出ましたがひとつひとつ丁寧にお答えいただきました。最後に蒲郡のガールスカウトの3人の小中学生に謝辞を述べていただいてからは養老先生を囲んでサイン会・撮影会となりました。鈴木蒲郡市長も一番前の席で、最後までメモを取りながら熱心に聴いて見えました。



明後日は京都で講演のある忙しい養老先生ですが、虫捕りの誘惑には勝てず、14日(日)は蒲郡のさがらの森で参加者とともに虫捕りをされて、この辺りに分布するヒメカタゾウムシが採集出来て、どんな地域変異があるのかを楽しみにされている様子でした。

虫や生き物から学ぶ

マリンLIC 35周年記念 養老孟司さんが講演



「知恵と努力の奉仕」に重きを置き、まちの活性化をめざした活動に取り組んでこられる「蒲郡マリンライオンズクラブ」(市川貞也会長)の創立三十五周年記念事業「バカの壁」の著者で解剖学者、東京大学名誉教授の養老孟司さんの講演会「虫好き集まれ！趣味に生かされる」が十三日、蒲郡市総合市民センターホールであった。十四日には、さがらの森で虫捕りイベントも行った。講演では虫も人間社会も生き生きとした姿が次々と語られた。

講演する養老さん
一九九〇年から二〇二〇年の間に、約九割の昆虫が世界からいなくなった。その家にはハエトリリボンを吊るしていたが兎もかくなくなくなった。高速道路を走っていると窓に昆虫がぶつかって来たが、今は無い。産業革命以後、人間の活動が活発になり、生き物が住みにくい世界になってしまった。人間の少子化も同じだ。夜になっても明るいところが多くなって、虫は明るいところが好きかといふところではない。暗いところと明るいところの境目によって棲まわっている。

日本国内で虫がどう愛わっているのか関心がある。私の故郷は鎌倉。本州はそこで曲がっている。ゾウムシは豊橋辺りで種類が変わっている。豊橋と鎌倉の間の、どこかに境があるはずだ。
二五〇〇万年前海だ。たいていような、最近できた土地には行きたくない。そういう場所には由緒正しい虫がいらないから。例えば、はびろ、そこには陸にならなから移動してきた虫たちがいる。一夜、紀伊半島は、そこでしか獲れない虫がいる。始めから陸だったところには虫の種類が多い。

ゾウムシがなぜ好きか。家に友達に来ると、小学生から作っていた標本からカブリトムシやクワガタ、カミキリムシなど大好の虫がい

を待っていつてしまふ。残るのは人がなくて、体が硬くて丈夫なゾウムシだった。最近その硬さの理由が、細胞内に細菌が共生しているからだと分かった。人間の細胞内に住み着いたミトコンドリアと同じだ。ゾウムシの種類によって細菌が異なる。
生態系には共生関係がある。例えば木の根が小さなイカダの森林。大きな木の根と小さな木の根が絡んでつながり、ネットワークを形成。大きな木は、それを通して光合成で作った糖分を小さな木に分け与えている。菌根で土を耕してしまふと、このネットワークを壊してしまふことになる。最近なことをあまり調べないで、立派な草葉を上げられるものは長くない。具体的なイメージがない。生き物同士が助け合っている、それが机上の動物と違ってあるか、机上の動物はなくて、いろいろな生き物があって成り立っている。京都大学の鹿野野先生は、蒲郡市ジュニア吹奏楽団の皆さん、合わせて四人が記念講演をされた。

20日市民会館で市制70周年式典
蒲郡市制施行70周年記念式典が二十日、午前十時から蒲郡市民会館ホールで開催される。
式典では名誉市民表彰、功労者功績者表彰、特別感謝状を贈呈する。名誉市民は蒲郡市長の稲葉正吉氏、蒲郡の観光大使、歌手のしがせしさん、サッカー選手の加藤康史さん、ニュートーク・メッツの千賀健大投手、漫画家の大橋裕之さん、元プロ野球選手の藤原さん、特別観光大使の藤原夫人さんがビデオメッセージを寄せる。
この後、蒲郡市吹奏楽団、蒲郡市シニア吹奏楽団、蒲郡市ジュニア吹奏楽団の皆さん、合わせて四人が記念講演をされた。